

【一関市】

校務 DX 計画

文部科学省は、令和5年3月に「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務 DX の方向性を示しました。提言では、今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウド活用を前提とした GIGA スクール環境を積極的に活用することで、教職員、校内外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減、コミュニケーションの迅速化・活性化が可能であるとしています。

また、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」(令和5年8月中央教育審議会初等中等教育分科会質の高い教師の確保特別部会)においても、一人一台端末の積極的な活用、汎用のクラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行、会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの活用による校務処理の負担軽減、スケジュール管理のオンライン化、学校と保護者間の連絡手段の原則デジタル化等の取り組みを進める必要があるとされています。

これらの提言を踏まえ、本市教育委員会は下記の主要課題に対応するとともに、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」(令和5年9月)に掲げられた項目について、各事項に対する取り組み方針を定め、具体的な取り組みを進めてまいります。

1. クラウドサービスの活用

(1)現状と課題

本市では、統合型校務支援システムや保護者連絡アプリを用いて、「教職員と保護者間」「教職員と児童生徒間」「校内」の連絡を行っています。児童生徒の欠席等連絡、学校から保護者へのお便り配信、児童生徒への宿題配信、職員間の情報共有等において、クラウドサービスの活用により、業務の効率化、時間の有効活用、ペーパーレス化が進んでいます。しかしながら、学校間における活用の格差が課題となっています。

(2)対応方針

活用が進んでいない学校の現状と課題を把握し、好事例や先進事例に関する情報を継続的に提供することにより、校務 DX 推進を支援します。

2. FAX でのやり取り・押印の見直し

(1)現状と課題

本市では、校務系ネットワーク内に「共有フォルダ」を構築し、「学校間」「学校と教育委員会間」「学校と給食センター間」の文書・資料の送付、データの授受に活用しています。また、教職員一人一人にメールアドレスを付与し、外部との連絡に活用していますが、慣例的に FAX を使用している場合も少なくありません。押印については、「学校と教育委員会間」で機微な情報を含む文書等への押印を求める場合や、「学校と保護者間」で、原則として押印を求めないこととしているものの、押印・署名が必要な書類も少なくない状況です。

(2)対応方針

災害時や学校教育ネットワークの不具合時など、FAX の方が効率的な場合を除き、FAX の原則廃止に向けて、関係機関及び学校とやり取りのある事業者に対し、慣行の見直しを依頼するなど、継

続的に働きかけます。また、教育委員会内で押印を求めている業務や書類の有無と見直しの可否、見直しができない場合の理由について現状把握を行い、機微な情報を取り扱う場合を除き、公印省略など押印ルールの見直しを図ります。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の排除

本市で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可能ですが、原則として CSV 形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録しています。個人情報ファイルの取扱いに十分留意し、この運用を継続します。

4. 次世代の校務システムの導入

(1)現状と課題

本市では、学校教育ネットワークを児童生徒の個人情報を取り扱う「校務系」と、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」に分離し、児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としています。そのため、個人情報漏洩のリスクは極めて低いものの、文部科学省が推奨する校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実施については検討段階です。また、令和6年度から統合型校務支援システムを導入し、教務系（成績処理、出欠管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）など幅広い業務で利用していますが、クラウド型ではあるものの、校務系環境はオンプレミス型の管理基盤で運用しているため、自宅や出張先での校務処理ができない等の課題があります。

(2)対応方針

現在、本市で導入している教育ネットワーク及び校務支援システムは、令和8年度末までの運用を予定しています。国で行っている次世代の校務デジタル化実証事業の成果などを参考に、校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実施等を視野に入れ、次世代の校務 DX を実現するシステムの導入検討を進めます。

5. 教育情報セキュリティポリシーの改訂

(1)現状と課題

令和3年度に GIGA スクール構想整備の開始に合わせて整備しており、クラウド型サービスの利用等も一定程度考慮されていますが、文部科学省が推奨する校務系・学習系ネットワークの統合等は考慮されていません。

(2)対応方針

文部科学省の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を踏まえ、校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実施等を視野に入れ、次世代の校務 DX を実現する内容に改訂します。

■「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」対応方針

【GIGA スクール構想の下での校務 DX 化（学校設置者）】

1. 教育委員会所管の業務のデジタル化

| No. | 項目（課題） | 対策 |
|-----|---|--|
| ① | 教職員に外部ともやり取り可能な校務用の個人メールアドレスの附与について | 現時点で付与済みではあるが、今後引き続き Microsoft365 を利用する計画であることから、職員個人にアカウントが附与できるようにする。 |
| ② | 教育委員会に学校と同様のクラウド環境を整備について | 現時点で整備・付与済みであり、今後引き続き環境の維持を行う。 |
| ③ | 教育委員会の指導主事へのGIGA端末を支給について | |
| ④ | 教育委員会主催の研修で端末利用・持ち込みを基本とし、クラウドサービスを活用することについて | 研修に応じて、端末利用・持ち込みを行っているが、持ち運び等の管理の部分への対応を検討する。 |
| ⑤ | 教育委員会主催の研修について、オンデマンド視聴を取り入れについて | 研修内容によって取り入れている。対面・集合型とオンデマンド視聴それぞれの良さを取り入れて、引き続き研修を見直していく。 |
| ⑥ | 教育委員会主催の研修アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計することについて | すでに活用しているため、継続していく。 |
| ⑦ | 教育委員会から学校及び教職員へのお知らせや相互の情報共有等をクラウドサービスを用いているかについて | デジタル文書便として、定期的には実施しているが、現在はクラウドではなく、データセンターサーバーを用いているため、クラウドサービスを利用して、デジタル文書便等での情報共有をさらに進めていく。 |
| ⑧ | 教育委員会が学校に発信する通知や調査をクラウドサービス等を用いて共有、実施、集計について | すでに活用しているものもあるが、今後さらに利用を推進していく。 |
| ⑨ | 学校との各種事務手続きをペーパーレス化について | イベントの参加等での申し込みなどはペーパーレス化していることもあるが、引き続きどの事務手続きをペーパーレス化していくか検討し、電子化、クラウドサービスの利用を推進していく。 |

| | | |
|---|--|--|
| ⑩ | 教育委員会主催の研修について、資料をクラウド上にアップロードしつつでも参照できる環境について | 閲覧可能な情報については、保管しているが、これからも資産を増やしていく。 |
| ⑪ | 教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境を整えているかについて | 今後のリプレイスの際、ゼロトラスト・フルクラウド化の構築を実現し、教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境を整えていく。 |
| ⑫ | 教育委員会主催の研修をハイブリッド（対面・オンライン）で実施について | 実施している研修は多くはないが、ハイブリッド（対面・オンライン）で実施している。今後も、研修内容・方法を検討し、より適切な研修を実施していく。 |
| ⑬ | クラウド環境を校外で使用した際の適切な勤怠管理・勤務時間管理の仕組みについて | 校内で勤怠管理システムを活用し、勤務時間管理は行っている。校外での退勤に関しては、退勤時間の確認方法やシステムの変更等を含めて検討していく。 |

2. 次世代の校務デジタルに向けた環境整備

| No. | 項目（課題） | 対策 |
|-----|---|--|
| ① | 統合型校務支援システムの導入について | 統合型校務支援システムは導入済みである。教職員の働き方を踏まえて、システムの有用な使い方について検討する。また、学齢簿の活用など、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に取り組む。 |
| ② | 校務支援システムの導入又は次期更改において、ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの導入の検討について | 岩手県主導によりクラウド版統合型校務支援システムが導入済である。 |

3. その他

| No. | 項目（課題） | 対策 |
|-----|---|-------------------------------|
| ① | 学校や教職員からフィルタリングに関する要望があったときに柔軟に反映する仕組みや体制を整えていますか | 情報セキュリティを遵守しつつ、要望に応じて対応をしている。 |

| | | |
|---|--|--|
| ② | 自治体のセキュリティポリシーとは別に、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定することについて | 令和3年度に策定した「一関市教育情報セキュリティポリシー」について、今日求められる内容に改訂し、次世代の校務DX環境の実現に努める。 |
| ③ | 自治体の文書管理規程等で、教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程について | 教育委員会業務についても市の教育に関わる公文書のデジタル化に基づき、対応を図る。 |

【GIGA スクール構想の下での校務DX化（学校）】

1. 教員と保護者間の連絡のデジタル化

| No. | 項目 | 対策 |
|-----|---|--|
| ① | 学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用した徴収金の徴収について | 現在学校徴収金は、口座振替、インターネットバンキング等を活用している。 |
| ② | 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内での集計について | 校務支援システム内の欠席・遅刻・早退連絡システムを導入済である。 |
| ③ | 保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いた実施・集計について | 内容に応じて、調査・アンケート等についてクラウドサービスを用いて実施・集計している。今後も内容に応じた実施・集計について検証を行う。 |
| ④ | 学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信について | 全校に導入済みである。 |
| ⑤ | 業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービス等を用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制について | 問い合わせや連絡事項のクラウドサービス等を用いたPC・モバイル端末等から受け付けについて、検討していく。 |
| ⑥ | 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けることについて | 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用いて受け付けることについて、ICT機器の切り替えの際に検討していく。 |

| | | |
|---|------------------------------------|--|
| ⑦ | 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いることについて | 保護者との日程調整においてクラウドサービスを用いることについて検討していく。 |
| ⑧ | 学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れているかについて | 現在は対面、集合型が主となっている。今後は、オンラインの有効性を検証しつつ、ハイブリッド型の説明会や面談を提案していく。 |

2. 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

| No. | 項目 | 対策 |
|-----|---|---|
| ① | 児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますかについて | 学習用タブレット端末を活用して実施している。 |
| ② | クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にC B Tの取り入れについて | 学習用タブレット端末の更新時に導入を検討していく。 |
| ③ | 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末の家庭での利用について | 発達段階と整備状況に応じて家庭で利用している。今後、全ての学年での持ち帰りの検討を行っていく。 |
| ④ | 児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いての配信について | 連絡事項や便り等をメール配信で行うことや紙媒体で伝えることは各学校がそれぞれで行っている。今後は、学校の状況を調査し、各校の実態に応じた配信を行っていく。 |
| ⑤ | 宿題（学期中のもの）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点について | 小学校、中学校ともに市販のドリルシステムを導入している。また「eライブラリ」の活用については学校差があるため、活用方法の周知・利点についての説明を行う。 |
| ⑥ | 宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いての実施・採点について | デジタルドリルの導入はしている。宿題（長期休暇中）の有効性についての調査・推進を行っていく。 |
| ⑦ | クラウドサービス等を活用し、定期テストにC B Tの導入について | クラウドサービス等を活用し、定期テストにC B T導入の検討を行う。 |

3. 学校内の連絡のデジタル化

| No. | 項目 | 対策 |
|-----|----|----|
|-----|----|----|

| | | |
|---|---|---|
| ① | 教員への校務用の個人メールアドレスが付与について | 必要な教職員への付与済である。 |
| ② | 職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れについて | Microsoft365 及びクラウド型の校務支援システムグループウェアが導入済であり、広範囲に使用されており、より一層の活用を図っていく。 |
| ③ | 職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化について | 数校でのペーパーレス化は実施しているため、今後学校の実情に応じて、資料のクラウド上で共有し、ペーパーレス化を推進していく。 |
| ④ | 教職員への調査・アンケート等のクラウドサービスを用いた実施・集計について | 学校の実情に応じて、活用を図っていく。 |
| ⑤ | 校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れについて | 現在は、ほとんどの学校が対面・集合型研修を実施している。オンデマンド視聴が有効である研修も多くあるため紹介していく。 |
| ⑥ | 授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスの利用について | 授業研究会や校内研修での協議においてクラウドサービスをすでに利用している部分もあるため、内容に応じて取り入れていく。 |
| ⑦ | 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有・活用について | 教材等をクラウド上で共有・活用を行っている。校内での教材の共有・利用を推進するとともに学校外での共有も検討をしていく。 |
| ⑧ | 職員会議等における検討事項について、クラウドサービスを用いて事前に情報共有し、あらかじめ意見を求めているかについて | クラウドではなくファイルサーバーを用いて職員会議等での事前の情報共有をし、あらかじめ意見を求めている学校はあるが、学校差が大きい。有効性を周知する必要がある。 |
| ⑨ | 長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査に関するクラウドサービスを用いた実施・管理について | 共同編集をして、ファイル管理が可能であることからフルクラウド化の際、管理・活用方法を検討する。 |
| ⑩ | 校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるかについて | 現時点では、ファイルサーバーを用いた形で実施できるが、学校差が大きい。使用方法について研修等を実施していく。 |
| ⑪ | 教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けているかについて | ほとんどないため、検証が必要である。（学校長の決裁が必要なため） |

| | | |
|---|-------------------------------------|--|
| ⑫ | 授業研究会や校内研修等をハイブリッド（対面・オンライン）の実施について | G I G Aスクール推進校での検証に取り入れ、今後の検証を行っていく。 |
| ⑬ | 学校から教職員に紙で提出を求めている書類について | 検証し、精査を図っていく。 |
| ⑭ | 職員会議等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施について | 学校ごとに実施の状況は異なる。また学校規模によっても効果が異なるため、学校ごとの効果を改善する。 |

4. その他

| No. | 項目 | 対策 |
|-----|---|---|
| ① | 学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいように整理され、閲覧について | 新たな教育基盤の構築の際、学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるよう検討する。 |
| ② | 1人1台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せているかについて | 教職員・児童生徒の双方が管理している。そのため、個に応じた管理の方法を検討していく。 |
| ③ | 保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類について | 廃止の方向で検討を進める。 |
| ④ | 業務における FAX の使用について | 原則として、通常の業務で取り扱わないが、災害等でネットワークが途切れた際のネットワーク代替手段としては必要であることから併用を考えている。 |
| ⑤ | 「初等中等教育段階における生成A Iの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づく生成A Iを校務での活用について | 検証校の検証結果を基に生成A Iを校務で活用することを検討していく。 |